

# キューバの医師にノーベル平和賞を

「世界の隅々に、爆弾ではなく医師を送れ」とのフィデル・カストロの言葉通り、キューバはパンデミックに苦しむ 50 カ国以上に国際医療協力隊『ヘンリー・リーブ隊』を送り、多くの命を救っています。

このカリブの小国の奇跡に世界は惜しめない拍手を送り、「キューバの医師にノーベル平和賞を贈ろう」との運動が高まっています。

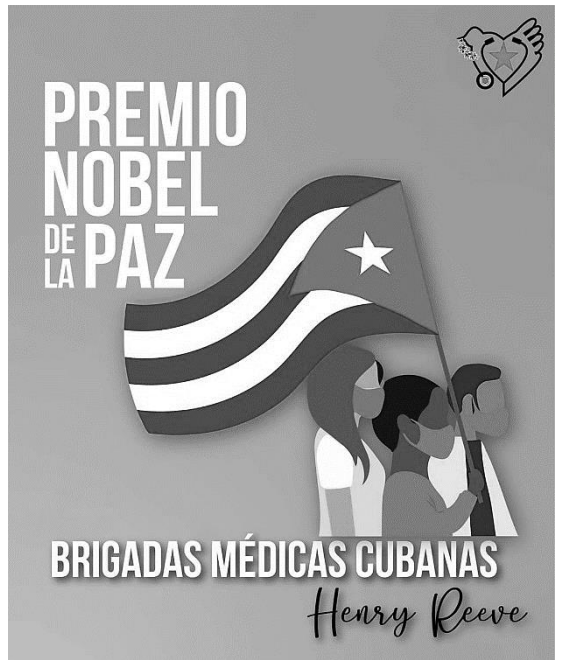
『ヘンリー・リーブ隊』へのノーベル平和賞は、単にキューバに名誉をもたらすだけでなく、連帯の大切さの再確認と、「命が何よりも大切にされる世界」を築く大きな一歩となることでしょう。

実現を願ってやみません。



## キューバ訪問団(11月出発予定)

参加希望の方はご一報ください!



コロナウイルスによるパンデミックで『2020年 CUBAPON 友好訪問団』は残念ながら実施を断念せざるを得ませんでした。

しかし、先進資本主義国を中心とした多くの国々が医療崩壊に直面する中、50 カ国以上の国に医師団を派遣しているキューバとは一体どういう国なのか、どんな思いで国際連帯活動に取り組んでいるのか、行って実際に見てみたい、じかにお話を聞いてみたいという声がかかります高まっています。

|    | 都市名           | スケジュール                                                         | 食事                |
|----|---------------|----------------------------------------------------------------|-------------------|
| 1  | 羽田発<br>ハバナ着   | 午後：エアカナダで、空路トロントへ<br>国際線乗継で、深夜ハバナ着                             | 朝：機<br>昼：機<br>夕：× |
| 2  | ハバナ<br>サンティアゴ | 【世界遺産】ハバナ旧市街・モロ要塞、革命博物館、小説「老人と海」舞台コヒマルなど<br>空路、サンチャゴへ          | 朝：機<br>昼：機<br>夕：○ |
| 3  | サンティアゴ        | サンタ・イフィニア墓地でフィデルのお墓参り<br>モンカダ兵営、サンティアゴのモロ要塞など                  | 朝：○<br>昼：○<br>夕：○ |
| 4  | サンティアゴ<br>ハバナ | ピランのフィデル・カストロの生家を訪ねる他、<br>モンカダ兵営襲撃ゆかりの地、シボネイ農場など<br>その後、空路ハバナへ | 朝：○<br>昼：○<br>夕：○ |
| 5  | サンタクララ        | チェ・ゲバラ廟、ゲバラ博物館、カピーロの丘<br>列車転覆博物館など、チェゆかりの地を訪ねる                 | 朝：○<br>昼：○<br>夕：○ |
| 6  | ハバナ           | 学校・診療所視察、友好協会・労働組合中央本部表敬訪問<br>バナ市内にてショッピングなど                   | 朝：○<br>昼：○<br>夕：○ |
| 7  | ハバナ発          | 早朝、エアカナダで空路、帰国の途<br>トロント経由、羽田へ                                 | 朝：○<br>昼：機<br>夕：機 |
| 8  | 羽田着           | 午後：羽田着<br>お疲れさまでした                                             | 朝：一<br>昼：機<br>夕：× |
| OP | 青年の島          | ※オプション(OP)：延泊して青年の島・「友好の家」<br>訪問                               |                   |

訪問団の実施に向けて、まだ不安要素もありますが、企画しなければ何も始まりません。

については、23 回目となる「2021 年秋・CUBAPON キューバ友好訪問団」の参加者を募集します。

コースは医療施設見学、フィデル・カストロ革命最高司令官のお墓参りなどを盛り込んだ、充実した内容の訪問団です。ぜひ、この機会に、生のキューバに触れてみてください。

催行が具体化し次第、日程、費用などの詳細を追ってご案内いたしますので、資料ご希望の方はメールまたは電話でご連絡ください。

TEL : 03-3268-4387  
E-mail jvccp@rmail.plala.or.jp  
IFCC(鎌田)

# キューバ通貨一元化実施！今年1月1日から

キューバでは長年の懸案であった「通貨一元化」を今年1月1日から実施、今まで流通していたCUC（兌換ペソ）、CUP（人民ペソ）の二種類の通貨を人民ペソに一元化し、兌換ペソを廃止しました。

これにより、経済の混乱はないのか、どんな利点があるか、今後のキューバ経済の展望はどうかなどの疑問に答えるため、2月15日、駐日キューバ大使館はリモート講演を開き、ミゲル・アンヘル・ラミレス大使が講演しました。



## リモート講演「通貨・為替・金融制度の整備」



講演するミゲル・アンヘル・ラミレス大使

### ● 経緯と歴史的必要性

90年代、社会主義圏崩壊により1年間で貿易の80%を失ったキューバは市場に製品が供給されなくなり、貨幣の不均衡が生じた。通貨としての機能の一部を失ったキューバペソに対し、部分的なドル化が進んだ。

国は国民が所有する外貨収集のためドルショップを開設するとともに、国民のドルへのアクセスを解禁。また、経済のドル化抑制のため兌換ペソを発行。2004年には、ドルの流通をストップし、兌換ペソに完全に移行させた。

二種類の通貨の流通とともに問題となっていたのは二重為替レートで、市民部門では1CUC=24CPU、国際市場では1USD=1CUC=1CUPとしていたため、経済の歪みが生じ、2011年の第6回キューバ共産党大会で通貨・為替レートの統一をめざすこととなった。

### ● 開始日：2021年1月1日

米国によるかつてない経済封鎖の強化とコロナウイルスによる経済悪化（2020年だけでもマイナス1.1%）の中で、今年1月1日からの一元化実施を決断したのは、たとえ短期的に否定的な影響が出ようと経済を整備することが緊急課題であるということだ。

実施に向けた整備作業は以下の3点である。

- ① 24 キューバペソ=1 米ドルの単一レートの制定とCUCの合法的流通の終了
- ② 国民収入の改革
- ③ 過剰な補助金と無料制度の廃止

### ① 単一レートの制定とCUCの合法的流通の終了

- ・ 単一レート（24 キューバペソ=1 米ドル）の制定により少なくとも最初の時期には輸入品のすべてで高騰が予想される。
- ・ 企業部門では原料の価格の高騰、賃金上昇がコストを

押し上げ国民生活に直結する小売価格も上がる。

- ・ 一方で輸出部門は獲得する1米ドルごとに、今まで1キューバペソだったのが24キューバペソを受け取ることになり、このことが輸出企業の後押しとなる。
- ・ レート切り下げに耐え切れない企業の支援のため、国は180億ペソの国家予算を計上し、従業員の犠牲を避け、失業を増やさないための方策をとる。

### ② 国民収入の改革

- ・ 60年以上にわたってキューバで採られてきた公共政策の社会的性格と公平性を放棄することなしに、今までとは違った形で富を分配する。つまり、労働への刺激と各自の成果に準じて被雇用者の必要を満たす上での賃金の役割を回復する。

- ・ 賃金体系の歪みをなくし雇用への参入を奨励。最初の成果として1月に新たに4万人以上が雇用を得た。
- ・ 他方、最低賃金が、年金・社会扶助費・生活必需品等のコストを計算に入れて設定された。

※ 右上の図参照：最低賃金は必要な財とサービスをバスケット方式で計算した生活コストの1.3倍となる。

- ・ 新しい賃金体系は32の段階に分かれる。最初と最後のグループの差は4.5倍。より業績を上げた者がより多く受け取ることで逆ピラミッド問題の解決を図る。この新たな賃金体系で最低賃金が企業部門では9.3倍となり、低収入層に有利となる。
- ・ 他方、国営企業が利益を従業員に分配することへの規制を撤廃した（これについては訴えが出されている）。
- ・ 167万1千人の年金生活者に対しても通貨制度の整備により年金が増額された。また、国として個人への補助金として300億ペソを計上。特に経済的に脆弱な世帯の保護のため7億ペソの予算を組み、2万9,934件の申請により1万4,000人が保護、4,443人が雇用を受けた。



のような再生可能エネルギーへの段階的転換の促進が期待される。1月のハバナの電力消費が予測の82%とどまるなど、すでに効果はみられている。



情報番組に出演して説明するディアス=カネル大統領

### ③ 過剰な補助金と不適切な無料制度の廃止

- 全体的に補助金を『製品ではなく人に向ける』方向に転換する。
- 収入の増大が物価上昇に追い付かず、生活の質と水準が悪化した場合は社会的扶助が受けられる。
- 重要な補助金は維持される。小売り価格への補助金は290億ペソで、これは年間の賃金に相当する額である。
- 農畜産集荷場への補助金15億ペソも、農家の生産意欲を奨励するため維持される。
- 配給制度も維持される。
- 慢性疾患の薬への補助金は維持されるが、抗生物質など一時的な疾患のための薬品の価格は上昇した。
- 住宅用の電気料金は部分的に350kwまでは維持され、消費者の91.2%はこの恩恵を受けるが、電力発電に使う燃料の48%が輸入であることから、新たな交換レートによって電気料金は上がる(国民からの申し立てによって上昇率は緩和された)。

## 最終的考察（まとめ）と質疑

ミゲル・アンヘル・ラミレス大使は最後に最終的考察として以下の点を挙げて講演を締めくくりました。

- ◎ 各大臣や政府当局者は、この過程について国民に系統的に説明し、情報を提供してきた。
- ◎ 1月末から2月初めにかけて、ディアス=カネル大統領はすべての州を訪問し、このプロセスについて調査会議を主導した。問題の複雑さから、一部の方策は導入の上で問題があることがわかり変更した。また、各州で住民の意見の聞き取り調査も行い、そこでも経済的に可能な限り、変更がなされた。具体的には低水準の消費段階の電気料金、新聞代金、法律サービスの料金などが引き下げられた。
- ◎ 供給の不足、収入の増大、企業コストの上昇、これらは計画以上にインフレを引き起こしかねない。これに対処するため、国は投機的な価格や法外な価格に対処するための行政機構を投入した。
- ◎ キューバで操業する外国資本企業への利点として、キューバ経済に存在していた一連の歪みを取り除かれ、より透明で安定的なマクロ経済環境ができる。国内経済との繋がりにも便宜が図られる。
- ◎ 新自由主義的な調整ではない。革命の社会正義の理念を損なうことなく、経済的な歪みの解決がなされる。
- ◎ キューバ政府は『誰一人として見捨てることはない』という不変の原則を再確認している。

続いて、キューバ研究室 新藤道弘所長からの補足的な説明があり、その後、理解をさらに深めるため、各界（メディア・経済界・研究者など）から質問を受け、大使が答える形で進行しました。

### 《質問と答え》

- Q 半世紀の中で最大の改革ということで、戸惑いや反発はないか。
- A 必要最低限のものは配給で確保される。また、住民の声を聞くことに力を注いだ。改革の中でめざすものは「賃上げが物価上昇より下ではいけない」ということだ。給料は概ね5倍になる。物価上昇はそれ以下に抑える。
- Q レートの一元化で輸出が有利になるということだが、活用されているか。また、どこに何を輸出しているか。
- A 民間企業が新たに50社参入した。品目はラム・コーヒー・タバコ・はちみつ・シーフードという伝統的なものから、新しいものでは薬、サプリ、木炭など。ITを活用して販路を広げたい。民間企業の活性化がカギとなる。
- Q 個人営業の拡大は進んでいるか。
- A 今までは個人経営ができる分野として120の業種を許可してきたが、今後は教育・医療・防衛など124の業種以外は許可するというに変えた。この結果、個人営業ができる業種が2000になった。
- Q 輸出は今後増えるか。
- A 経済封鎖が緩和されれば増えるだろう。
- Q 送金ができないと企業として進出するのは難しい。バイデン政権となってどう変わるか。
- A 送金の問題については、日本の経済界からも政府、銀行に働きかけてほしい。バイデン政権になって経済封鎖が撤廃されることを期待しているが、そのためにキューバが妥協しなければならぬとバイデン新政権が考えているなら間違いだ。

以上、トータル約2時間、非常に内容の濃いリモート会議でした。（要旨記：村上久美子）



# いま、中南米では



中南米情勢が緊迫しています。

CUBAPONはキューバ連帯の旗を掲げると同様に、中南米の人民の闘いと状況を発信します。

## エボ・モラレス帰還！—ボリビア

—昨年の大統領選挙でエボ・モラレス大統領に対する「不正選挙」のデマ攻撃に端を發したボリビアのクーデターから1年。10月18日に行われた大統領選挙でアネス・クーデター政権からの激しい妨害、迫害を逃ね返し、エボ・モラレスの党MAS=Movimiento al Socialismo（社会主義運動）から出馬したルイス・アルセ氏が約56%の得票で圧勝、アルセ大統領の就任式の翌日の11月9日、アルゼンチンに亡命していたエボ・モラレス前大統領がボリビアに帰還しました。

帰国後、エボ・モラレスは各地で勝利を祝う大集会を開きながらアルセ新大統領が待つラパスに向かいました。自らの力で民主主義とエボ・モラレスを奪還したボリビア人民の民主主義の祭りは圧巻でした。

大統領就任式に招待されたエクアドル大統領選挙のアラウス候補者もチモレの集會に飛び入り参加し、ラテンアメリカ統一に向けて「UNASUR\*」（下に解説）再建に向けた決意を熱く語りました。

アルセ大統領が、ベネズエラのマドゥロ政権との国交を即座に回復、停滞を余儀なくされた経済の建て直し、コロナウイルス対策など、クーデター政権によって停滞していた国の機能を精力的に挽回する一方、エボ・モラレスは所属政党であるMAS党（Movimiento Al Socialismo=社会主義運動）代表に就任し、ボリビア国内のみでなく、ラテンアメリカの統合と社会主義運動の前進のため、活発に活動しています。

クーデターによって鍛えられ「エボとアルセ」のツインターボ車になったボリビアは、ラテンアメリカの反帝国主義の闘いの中心を担っていくことが予想されます。



チモレにて。エボ・モラレス（右）とアンドレス・アラウス

## 大統領選の陰謀を許すな！—エクアドル

エクアドルは左派政権を率いたラファエル・コレア大統領が2017年に任期を終え退任する際、副大統領だったレニン・モレノを後継者に立て大統領選挙に勝利しましたが、モレノは就任直後に豹変、米国にすり寄り、コレアに無実の罪を着せて訴追、駐英エクアドル大使館で保護していたジュリアン・アサンジを英国政府に引き渡すなど、信じられない行動に出ました。

こうした裏切り者の政治を終わらせコレア路線に戻すため大統領選挙に立候補したアンドレス・アラウス候補は2月7日、事前調査の予想通り、トップの得票を得て、決戦投票の相手が誰になるか、開票を見守っていました。

しかし、集計の半ばで激しく2位を争っていた銀行家のラッソ候補と環境活動家のヤク・ペレス候補、それに米州機構が加わって中央選挙管理委員会の会議室で『得票一位のアラウス候補を除いて』票の集計をやり直す密約を結ぶための会合を開き、その場に大統領専用機で乗り込んできたコロンビアの検察官が合流、『アラウス陣営にコロンビアの武装ゲリラ(ELN)から麻薬で得た資金が流れている』と告発しました。

しかし一時は密約に合意したラッソが撤回、中央選管も投票日から10日以上経った19日、ようやく最終結果を発表しました。これにより1位アラウス(32.70%)、2位ラッソ(19.74%)が確定し、4月11日に決戦投票が行われることが決まりました。

しかし、中央選管の不穏な動きや、わずか0.36%で3

位に沈んだヤク・ペレスの動向の他、ボリビアのクーデターを主導した米州機構、米国の忠実な下僕コロンビアが介入の動きを見せていることから、いつどんな陰謀が行われるか、まったく予断を許さない状況です。

UNASURとは、2007年に南米大陸の統合、統一議会、統一通貨をめざすとして発足したEUの南米盤ともいえる共同体で、発足当初は南米大陸のほぼ全域が加盟しましたが、現在はベネズエラを除き「停止状態」、崩壊寸前になっています。結成された時期、ベネズエラ大統領チャベス、エクアドル大統領ラファエル・コレア、ボリビア大統領エボ・モラレスが南米全体を牽引していました。そう考えると、この3国で起きたこと—ベネズエラへの執拗な攻撃、ボリビアのクーデター、そして、現在進行中のエクアドルの選挙を巡る攻防—は偶然ではなく、UNASURの結成で不利益を被る外国勢力の力が相当働いていると見て間違いありません。

## 干渉・経済封鎖と闘うベネズエラ

ベネズエラ総選挙は12月6日に行われ、投票率は31%にとどまったものの与党＝社会統一党が68.43%の得票で勝利し、1月5日、新たな体制でベネズエラ国民議会が発足しました。

ベネズエラ国民議会が発足した当日、「総選挙を認めず2015年選出の議員のみ正当とする」「引き続き大統領はグアイドであると認める」と、現実を否定する声明を出したのは米国、イギリスはじめ、カナダ、チリ、コロンビア、ブラジル、ウルグアイなど、いわゆる「リマグループ参加国」の一部にとどまりました。

一方、EUはようやく妄想をやめ、現実世界に戻って、「グアイドを大統領として認めない」との声明を出しました。しかし、声明の後もEU議会や加盟国の中ではマドゥロ政権の正当性に疑義を唱える動きが完全には収まっておらず、また、欧米はじめ西側諸国（日本の三井住友銀行含む）が「グアイドが大統領だからマドゥロ大統領の要請で引き渡すことはできない」という理屈で凍結しているベネズエラの国家資産については何も言及していません。

ベネズエラは、抗コロナウイルスワクチンの購入のため、国家資産凍結の解除を求めています。人道的な見地からも、早急にベネズエラに返還されなければなりません。



ベネズエラでは米国の経済封鎖によって4万人が命を落としている

ジェフリー・サックス（米国経済学者）

米国の経済封鎖によって5年間（2015年から2019年）でベネズエラの外貨収入はマイナス99%に落ち込んだといわれており、経済封鎖の影響がいかに深刻であるかを物語っています。

このしわ寄せは社会的弱者である子どもや老人に大きく影を落としており、米国の経済学者ジェフリー・サックスは経済封鎖によって4万人もの命が失われていると指摘しています。

こうした中でマドゥロ政権は健康と命を守る砦として「住宅建設作戦」で340万戸の住居を供給するとともに、パンデミック対策に力を注ぎ、キューバやロシア、中国の支援もあってラテンアメリカでは数少ない成功している国の一つになっています。

## 核兵器廃絶に向けてともに努力を

高校生平和大使から批准国に手紙



批准国は現在52カ国にのぼっており、そのうち22カ国はキューバ・ニカラグア・ボリビアをはじめとする中南米の国々です。

一方、唯一の戦争被爆国でありながら「アメリカの核の傘の下にいる」ことを理由に反対している日本政府の態度は恥ずかしく情けないものです。

こうした中、批准国の大使館にお礼の手紙を送った高校生平和大使の取り組みは未来への希望につながるものと言えます

1月22日、核兵器の開発、保有、使用などを法的に禁じる核兵器禁止条約が発効された日、核兵器禁止条約を七番目に批准したベネズエラのセイコウ・イシカワ大使がニュース番組の取材を受けました。

インタビューの中で大使は、高校生平和大使からお礼の手紙が届いたことに触れ、「彼らの活動と努力に私たちの方がお礼を言いたい」と述べました。

はじめ、お手紙を差し上げます。  
わたし達は、全国で《核兵器の廃絶と平和な世界の実現をめざして活動している、高校生のグループです。

高校生平和大使&高校生1万人署名活動は、毎年、国連に核兵器の廃絶と平和な世界の実現をめざす署名を届けています。その数は、200万筆を超えています。それぞれ24日目、21日目を迎えました。署名活動は、日本国内をはじめ、韓国、フィリピン、ブラジル、ハワイなどで行っています。日本国内では、北海道・岩手・福島・新潟・神奈川・東京・静岡・大阪・奈良・兵庫・広島・福岡・佐賀・熊本・大分・長崎の16都道府県に拠点があります。また、2018年からは毎年ノーベル平和賞候補となっています。

さて、2020年10月24日に、核兵器禁止条約の批准国が50ヶ国（現在は51ヶ国）に達し、90日後の、2021年1月22日には、条約が発効することになりました。批准された貴国に敬意を表します。今年中に、締結国会議が開かれることになっています。貴国や被爆者、市民社会の願いが届いた結果だと言えます。

しかしながら、条約が発効されたからと言って、核兵器がなくなるわけではありません。これまでも増して2021年1月22日の条約発効を核兵器廃絶へ活かして行くことが求められています。そのために、わたし達は貴国の行動を称賛すると共に、今後の活動に大いに期待しています。そして、わたし達も、核兵器のない、平和な世界の実現に向けて、がんばっていくことを誓います。

2021年1月

高校生平和大使&高校生1万人署名活動実行委員会



# イノセンシア

2018年 121分 キューバ



昨年(2017)の10月21日、「キューバ文化の日」を記念した映画会が駐日キューバ大使館主催で開催された。

上映された映画『イノセンシア』(アレハンドロ・ヒル監督、2018年制作、121分、キューバ、日本語字幕付)のあらすじは

——スペイン植民地下のキューバ、1871年11月、医学部の1年生たちが不当な嫌疑で収監されるが、そのうち8人だけが予期せぬ結末で虐殺される。16年後、犠牲者らの友人で刑務所仲間のフェルミン・バルデスは彼らの無実を証明するため闘う。新しい手がかりが彼を隠された真実に導く。実話に基づくこのストーリーは19世紀ハバナを揺るがせた事件のひとつである——

時代背景がわからず困ったが、1898年の米西戦争でスペイン王国がキューバを失う前の植民地下の史実に基づく。

1868年に最初の独立戦争(第一次キューバ独立戦争)が起こる。キューバ東部から迫り来る独立の機運を、恐怖で押さえつけようとするスペイン王国志願兵部隊の横暴、見せしめの血祭りの犠牲となる罪のない学生たち、彼らの家族の焦燥と無力感、など映し出される。

主人公のフェルミンは、キューバ独立の父ホセ・マルティの同志で、しかも2人とも本映画の「医学生事件」の2年前にスペインの軍事法廷で裁かれ有罪になっていた。

ちなみにマルティは、独立革命に参画したことから、1869年に反逆罪で囚われ翌年に懲役6年の宣告を受け、後にキューバ南西部のピノス島(現・フベントゥ島=青年の島)で軟禁され、1871年にはスペインへと移った。

青年の島は今では日系キューバ人が多く住み、CUBAPONとは友好交流で関係が深いところである。島には今もマルティの軟禁跡の家屋が残されており、見学し

たこともあって、一層時代が浮かび上がってくる。

映画は、前半は“まったり”とした展開で、恋の話や、学生たちの学生生活ぶりが映し出された。それによって、後半の本筋がより鮮明かつ鋭く描かれている。

幾つか印象に残ったことがあった。  
・志願兵部隊の「スペイン王国万歳」を叫ぶ狂気には私たちの周りにも「軍



## TOUR OPERATOR アイエフシー

はCUBAPON関連の手配旅行社です  
キューバをあなたに届けます

- ◆ アイエフシーはIFCC国際友好文化センターの関連旅行社です。“人と人との出会い”を通じた友好・交流プログラムを演出します。
- ◆ アイエフシーは文化、政治、福祉、環境分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝いします。
- ◆ アイエフシーはキューバなど中南米、ベトナム・中国などアジア、ドイツなど西欧、デンマークなど北欧のプランニングを行っております。

東京都知事登録旅行業第3-3757号

〒162-0801

東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405

TEL 03-3268-6014 FAX 03-3268-6079

靴の足音」が聞こえているようで寒気がした。

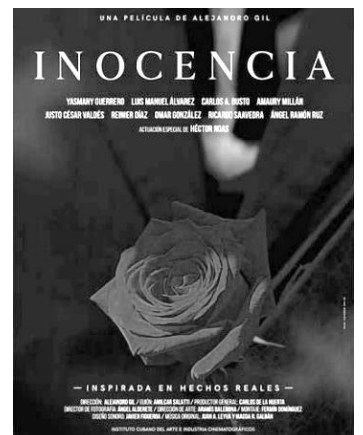
・銃殺刑が執行される前の教会司祭との悔悟のシーン。「祈りなさい」という司祭に学生は「無実の罪の何を悔悟するのか」と問う。司祭は絶句する。

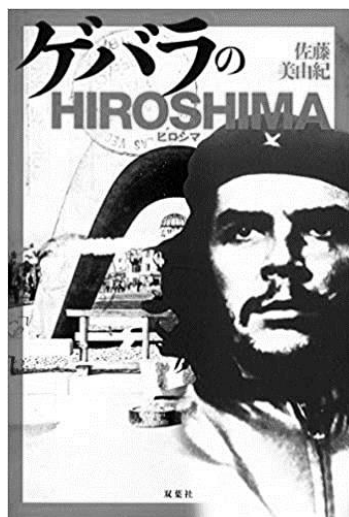
・銃殺された学生が生前「彼女とキスをしてきた」と吹聴していたが、その恋人が「私たちはキスしたことはなかった」というラストシーンで、私の目頭が熱くなった。

くしくも、この日は「10・21国際反戦デー」だった。

※イノセンシアとは無罪・無垢の意味。

(記：鎌田篤則 2021/2/10)





# ゲバラの HIROSHIMA



著者：佐藤美由紀

2017年 KK 双葉社・刊（定価・¥1500+税）

核兵器を全面的に違法とする初の国際法「核兵器禁止条約」が今日、2021年1月22日発効となった。核兵器廃絶に向けた大きな一歩であり、今年を「核なき世界」実現の新たな出発点にと世界中の心ある人々が願っている。一部核保有の帝国主義国とその傘下の日本政府などを除いて。

いずれにしても、核の「平和利用」である原子力発電所を含め、核全廃をめざす偉大な人類の出発の日である。どのような人々の営為があって本日に至ったか。私はこの本に注目した。

1959年7月25日、広島を訪問したキューバ革命指導者のチェ・ゲバラの写真に心動かされた広島出身のライターが、2017年に著したのがこの本である。いかに教育とマスメディアが重要かということが明らかとなる本でもある。

1959年1月1日の革命直後のキューバ建国のため、カストロが白羽の矢をたてて送ったゲバラを団長とする特使団である。第2次世界大戦で打ちひしがれた日本がいち早く経済建設で成功を収めている秘密を解き、自らの国に持ち帰る。3カ月間に亘ってそういった任務を世界中で果たしていく中で、日本政府の非協力と強行日程を乗り越え、ゲバラは何としても果たしたかった広島行きを貫徹したのだ。

この本が出版される直前に封切られたゲバラの映画（キューバとの合作長編映画『エルネスト』。2017年、南米ボリビアでゲバラが虐殺された50年目に公開）も、中国新聞記事掲載のこのヒロシマ平和記念公園でのゲバラの映像の再現から撮影が開始された。

「三頭政治（フィデル、ラウル、ゲバラ）の、いちばん魅力的なキケンな人物。女性たちの気持ちをかき乱しそうな、優しくてはにかんだ微笑で、抜け目ない冷静さで、広範な知識で、高度な知性とユーモアのセンスでキューバを指導する男」（162頁、TIME誌の記者）に、すっかり心を奪われてしまったこの著者も、取材で歩けども歩けども、地球の裏側の島国までたどり着いても、1959年7月25日の訪問翌日の中国新聞の一葉きりの写真入りの小さな記事しかない。そしてゲバラの渡航中に一枚だけ出した広島からの妻への絵葉書（「今日はヒロシマから送ります。

原爆の街です・・・平和のために断固として闘うには、ここを訪れるのがよいと思います」と、ゲバラ自身が撮影した慰霊碑の写真一枚だけ。

そして、原爆資料館を見学した後に絞りだすように言った言葉：「きみたち日本人は、アメリカにこれほど残虐な目に遭わされて、腹が立たないのか！？」、原爆病院で被爆者と触れ合っ、患者を抱きしめ涙を流したゲバラがつぶやいた言葉：「これからは、ヒロシマを、ヒロシマの人々を愛していこう」。まだ、キューバ共和国の省庁体制が未確立で、外務省には「報告書：公文書」づくりの発想もルールも人手もなかった時代だ。

しかしこのゲバラの帰国報告を受け、以来、キューバ共和国は中学校の教科書にヒロシマの原爆被爆を掲載し授業を行い、テレビでは毎年、特集報道をしているとのこと。その成果がキューバで一般の道行く人への著者によるインタビューと、日本での広島市・長崎市・全国での2015年NHK調査の比較、そのあまりもの「格差」で明らかとなる。

2003年3月1日、キューバのフィデル・カストロ国家評議会議長がヒロシマ訪問をしたが、9年間務めた館長が、数多くのVIPで「あそこまで熱心に、真剣に、心を傾けた人はいない」（135頁）と言う。そして44年前のゲバラの写真を見せたら、相好を崩して喜び、ハグをしてきたと言う。

2016年8月、90歳の誕生日を迎えたカストロは、同年5月にアメリカのオバマ大統領がヒロシマ訪問した際、原爆投下で大量殺人の謝罪をしなかったと批判し、「いかなる大国でも多くの人々を殺す権利はない」と平和を守る必要性を訴え、その3か月後、11月25日、生涯を閉じた。

「人類を核戦争の瀬戸際まで追い込み、世界を震撼させた」（118頁）1962年10月16日からの「キューバ・ミサイル危機」を実体験し、91年からの社会主義世界体制の崩壊の下でもひとり営々と社会主義建設を続け、核戦争反対の粘り強い訴えを発信し、かつ新型コロナ感染問題でも国内外で先進的に取り組み、世界中に先進的な医療提供を続けている「カリブ海の真珠」と言われるこの国の人民の献身的闘いが、本日の平和への第一歩をつくりだしたのである。

（9条ネット滋賀ニュース132より）

（記：稲村 守 2021/1/22）

# コロナ禍で《リモート連帯》

新型コロナウイルス感染防止のため会議や集会の開催が困難となる一方で、リモート形式の取り組みが活発です。

昨年11月、キューバ大使館、ベネズエラ大使館が相次いでリモート会議を主催しました。

## ● 第6回全国キューバ友好のつどい

11月25日、12の友好団体から75人が参加して第6回全国キューバ友好のつどいがリモート方式で開催されました。

各団体からの活動の報告と交流に続き、ICAPからお願いしたいこととして、次の6点が挙げられました。

- ① 団結を強めること
- ② 封鎖撤廃・グアンタナモ基地問題の解決（返還）を求めること
- ③ 歪曲に対し、正しい情報をオルタナティブ・メディア（マスメディアの対語・SNSなど）で発信してほしい。
- ④ 若いメンバーを拡大し、運動の継続を図ること
- ⑤ プリガーダへの参加をお願いしたい
- ⑥ 「友好のつどい」を今後とも2年に1度、継続して取り組んでいきたい

## ● ベネズエラS・B平和連帯協会オンライン会議

11月16日、ベネズエラのシモン・ボリーバル諸国民平和連帯協会とのオンライン会議がもたれ、本国ベネズエラから参加されたカルロス・ロン会長からお話を伺いました。

・ベネズエラは経済封鎖と制裁で労働の成果が奪われ、イデオロギー戦争、SNS等を通じたフェイクニュースにあふれている。これらを解決するのは「連帯」だ。いかなる国も孤立して問題を解決することはできない。それが我々のパラダイム（基本的概念）だ。

・資源に対する主権＝「資源主権」を守る。米国は覇権を守るために何でもする。大変危険だ。トランプ政権発足以来、ベネズエラ周辺に一貫して南方軍が展開し、常に軍事的脅迫を受けている。

・これに対し、我々はロシア・中国・イラン・トルコ・キューバ、それに国連の支援を受けている。ベネズエラとの連帯は国際秩序の維持、国連憲章を守ることにつながる。



### セニョリータの ラ米★ウォッチ



中南米のホットなニュースを不定期でお届けしています。

配信ご希望の方はこちらのアドレスにメール下さいね！

javccpf@rmail.plala.or.jp



全国キューバ友好のつどい

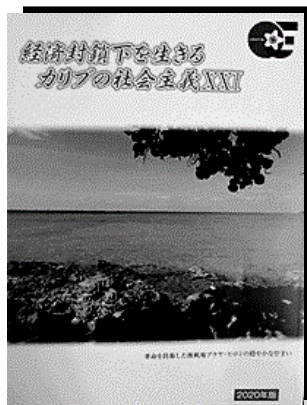
## CUBAPONからの報告

日本キューバ連帯委員会、通称 CUBAPON は特別期の只中の1993年に結成され、以来、毎年、友好訪問団を組織し、自分の目で見て感じたキューバの本当の姿を広めるとともに、情報発信する活動を進めています。

今日はフィデル・カストロ革命最高司令官のご命日ですが、2016年11月25日、第19回 CUBAPON キューバ訪問団はビランのフィデルの生家、サンティアゴ・デ・クーバのモンカダ兵営、革命成功を宣言した市庁舎など、フィデルの足跡を辿ったその夜に、訃報に接しました。

翌朝、朝一番でハバナに戻り、その足で ICAP 本部を訪ね、当時のアリシア副総裁と抱き合っただけを昨日の日のように思い出します。キューバが深い悲しみに沈んだその日、その悲しみを分かち合えたことは、特別期の最も苦しいときにキューバに寄り添うことを目的に結成した CUBAPON にとって非常に象徴的なできごとであったと思います。

今年はパンデミックのため、CUBAPON 訪問団は中止せざるを得ませんでした。世界的に高く評価されているキューバの医療やバイオテクノロジー、ヘンリー・リーブ隊を中心とした国際連帯活動など、キューバには学ぶべきことがたくさんあり、キューバの取り組みを発信していくことは非常に意義があると思っています。ぜひ来年こそは、23回目となる CUBAPON キューバ訪問団を組織して訪問したいと思っています。



### 経済封鎖下を生きる カリブの社会主義 Vol.21 2020年版

革命60年のキューバを記録したレポート集です。ぜひお求め下さい！

頒価 800円